

平成 27 年度 学校経営計画及び学校評価

1 めざす学校像

1. 知的障がいのある生徒の能力や可能性を最大限伸ばし、健やかな身体と豊かな情操、道徳心を培うとともに、自主及び自律の精神を養う、学校。
2. 地域社会で自立して生きていく力の育成を図るため、職業及び生活との関連を重視し、働くための知識や技術を育み、社会人としての生活習慣や勤労を重んずる態度を養う、学校。
3. 「ともに学び、ともに育つ」教育を推進するために、併設される摂津支援学校と協同して、地域の小・中学校・高等学校等への支援体制を整備し、支援教育のセンター的機能を有する、学校。

2 中期的目標

1. 高い専門性を有する学校をめざす。(ア) 教職員一人ひとりの授業力を向上させる。(イ) 子どもの障がい特性を考慮した適切な「集団指導」と「個別指導」の充実を図る。(ウ) とくに、学科及び職業関係科目の充実を図る…学習環境の整備)
2. 学校組織(学科・学年・校務分掌等)の確立と人材育成。(ア) 一人ひとりの教職員の適性や能力に沿い、適材適所をめざした組織の構築。(イ) 一人ひとりの教職員の可能性を伸ばす人材登用と人材育成を行う。)
3. 地域への認知促進と地域との連携。(ア) 地域の特性を考慮しながら進路指導を進めるなかで、地域企業との結びつきを強める。(イ) 地域の社会資源と連携し、生徒の社会貢献意識を高める。(ウ) 多くの人々が本校を知って頂き、さらに本校へ足を運んで頂けるような取り組みを充実していく)
4. 本年度から、毎年卒業生を輩出するにあたり、生徒一人ひとりのニーズに沿った進路指導の充実と、就労先企業の開拓に努める。卒業時点での就労率を、継続的に 80%以上を確保できる学校とする。

【学校教育自己診断の結果と分析・学校協議会からの意見】

学校教育自己診断の結果と分析 [平成 27 年度 12 月実施]	学校協議会からの意見
<p>【課題点】</p> <p>授業 3割の生徒が授業の分かりやすさや楽しさを実感できていない。4割の生徒が考えをまとめたり、発表する機会が少ないと感じている。3割近くの保護者が子どもは授業が楽しくわかりやすいと答えていない。2.5割の保護者が子どもは学校に行くのを楽しみにしていると答えていない。</p> <p>教育相談 4割の生徒が、先生に相談しにくい環境だと感じている。</p> <p>部活動 3割の生徒が部活動に参加していない(保護者も同じ)</p> <p>【分析】 本校の良さは、進路指導や人権教育の機会が充実している点、学校行事や防災教育などが、生徒の実態に即した内容で実施されている点だと考えられる。 改善点としては、生徒の学習における主体性の向上や理解を深める学習方法・内容の検討・工夫である。また、教育相談は、教員では高い評価であるにもかかわらず、生徒は相談しにくいと答えている。他に、教員とのギャップでは、性に関する指導と人権教育がある。 昨年度から向上した点は、生徒が学校に行くのが楽しいと答えた割合が増えた。</p>	<p>【第1回】(委員) 基礎的環境整備、合理的配慮について⇒明文化されているのか、どのような取り組みをされているのか。(校長) 合理的配慮について 公の場で直接教員に言ったことはない。合理的配慮についてはその支援がどういった目的でおこなわれているのかしっかり説明できるかどうかであると考えている。基礎的環境整備について 高等支援として最低限度の必要なものが不足した状態である部分は確かにある。より向上した教育サービスを供給するために環境整備は今後も必要。</p> <p>【第2回】年間の研修について、研修をカテゴリー別に分け、どういった能力について行われている研修かを検証する必要がある。伝達講習は重要である。校内的に伝達講習を徹底したほうがよい。外部への講師活動についても次年度に生かせることができるように。生徒の就労について、生徒の中で就労を希望していない生徒もいるようだが、生徒の希望数も表記していないと、我々にはそのあたりの成果=実際の就労率が見えてこない。最終的にはすべての生徒の希望がかなうといいのだが、この時期にしては厳しい状況に思う。学校一丸となって頑張ってもらいたい。</p> <p>【第3回…2月5日開催】</p> <p>●現時点での就労率について。現時点で、80%程度の実績を残せたが、就労希望者をベースにした数字である。この就労希望者は、本校の設立趣旨からは、生徒定員と同値になるべきではあるが、本校のミッション(=就労をめざす学校と言う、「ミッション」)から外れた生徒も少なからずいたので、今後の学校課題として残っている。</p> <p>●長期不登校生の課題についても、話題に上る。これらの生徒に対する指導経過等の説明を行う。長期欠席、不登校生についての指導は、そうなる前に踏みこんでの指導が必要であると、指摘される。</p> <p>●教員の授業評価が、学校教育自己診断において芳しくなかったが、その要因として、各教員の授業評価を行い、フィードバックしていく必要がある。</p> <p>●生徒とのコミュニケーション力についても、生徒から「先生に相談しにくい」と言った事象が、自己診断から上がってきている。経験知の少ない教員や講師の割合の多さ(全教員の1/3)にも起因するのではないかと。</p>

3 本年度の取組内容及び自己評価 <中期(3年~5年間)ビジョンにたち、昨年度取り組みを踏襲し、定着・充実・発展をめざす…学校の土台つくりのため>

中期的目標	今年度の重点目標	具体的な取組計画・内容	評価指標	自己評価

府立とりかい高等支援学校

<p>1. 高い専門性を有する学校</p>	<p>(ア) 授業力の向上。 (イ) 個に寄り添ったきめ細かい指導・支援スキルの向上。 (ウ) 外部講師による講演会の開催や講習会・講演会の参加。外部講師による授業力向上の取り組み。</p>	<p>① 個々の授業の充実を図る。 i、略案提出。 ii、研究授業は、必ず研究協議を実施。 iii、出来るだけ多くの教員が参観する呼びかけや仕掛け(週間や月間)を作る。 iv、後期(1月頃)に実践研究会の開催。 上記は、本校指導教諭(研修・研究担当)を中心とした取り組みとする。 ② 個々の難しい事案について、生活指導部と校内支援担当(コーディネーター)がコラボした、「ケース会議」を開き、教育・支援方針を打ち出し、実践する。(※教員一人一人が、「個別指導」が出来るように、OJTを主としながら専門性を向上させる) ③ 難しい生徒事案に対処する「講演会」開催や、学校外での「講演会」「講習会」への参加を積極的に促す。 外部講師の活用による、「授業力向上」の取り組みを行う。 ④ 本校のキャリア教育の特色を表した、キャリア教育プログラム(マトリクス)を完成させる。</p>	<p>① 授業力向上につなげる研究授業の開催 <u>一人年1回、初任者3回</u> i、授業略案の提出 (観点:キャリア教育等の目標像と合致した授業を行っているか) ii、振り返りシートの提出 iii、研究協議の設定 iv、実践研究会の開催 ② 「ケース会議」…その都度、迅速に対応・解決する。 ③ 外部講師を招いた講演会年1回以上。 学校外で開催の「講演会」や「講習会」への参加 年2回以上。 外部講師活用による「授業力」向上の取り組み 年5回以上 ④ 本校版「キャリア教育マトリクス」の完成</p>	<p>① 一人年1回、初任者3回(○) i、授業略案の提出(○) ii、振り返りシートの提出(○) iii、研究協議の設定(○) iv、実践研究会の開催(○) ② 「ケース会議」…(その都度、開催)(○) 「ケース会議」の後、個人的生徒指導、または家庭支援を行うことで、改善の方向に向かっている。 ③ 人権研修(8月)1回、1月実践研究会1回(◎) 首席(東大阪支援)、指導教諭(北摂つばさ高校)、校長(東住吉高校)校長(関西大学)…計4回(◎) 梅花女子大 川戸先生からの指導6回(◎) 初任者を中心として、授業改善のメインに研究協議をその都度開き、改善を行ってきた。授業案の書き方、及び授業の進め方について、ご意見を頂いた。回を重ねるにつれて、初任者の授業力が向上した。 ④ 来年度から 今年、職業学科を始めとした、「職業に関する科目の授業数の見直し」を行っている。また、各学科のシラバスと3学科全体のマトリクスの作成を予定(△)</p>
<p>2. 学校組織・学科・学年・校務分掌等の確立と人材育成</p>	<p>(ア) 中期的ビジョンに立った、校内組織の構築。 (イ) 組織の透明性と業務のスピード化。 (ウ) 人材の育成。</p>	<p>① 教頭・首席を組織の「要」とし、学校運営を円滑に進めるため、年度当初に組織の改編を行い、1年間をかけて、その成果を検証する。 ※堅固な分掌組織を構築したうえで、分掌内の業務のルーチン化と人材育成を行う。 ② 機動的組織運営を図るために、職員同士のコミュニケーションを重要視し、きめ細かい「報・連・相」を浸透・徹底する。 ③ 管理職、首席・指導教諭、教諭、講師等あらゆる職種の人材育成(キャリアアップ)と人材登用を行う。 ④ 「進路指導」「学科指導」「一般指導(クラス・教科指導を含む)」の三位一体をめざすために、職員間の意思疎通を図る。 ⑤ 摂津支援との兼務を生かして、本校で完結することなく、広い視野で連携を探り、両校の発展に努める。</p>	<p>① 学校の完成形としての、各分掌組織の基礎固めと、分掌内での人材育成を行う…検証課題とする。 ② 始業前打ち合わせ(毎朝)、職員会議(月2回)・学年会議(月2回) 分掌会議・委員会会議(月2回)、企画運営会議(月2回)…継続。 総務部を新たに創設し、組織を横断的にまとめたり、組織全体を機能的に動かせるようにする。 ③ 適切な人材配置と活躍の「場」の提供。チーフには、若手教員を配置し、年配教員がバックアップ役に回る。 ④ 職員間の情報共有をベースに、共通理解と意思疎通を図るための会議設定を行う。(週1回)新たに各学年に進路担当者を置き、進路指導部と学年との連携を図り、学科担当者の学年配置により、学科と学年の結びつきをより緊密化する。 ⑤ 施設・設備の共用を効率的、円滑に進めるために 摂津支援との連携会議を各教科や分掌・係り単位で行っていく。(年3回以上)</p>	<p>① 分掌の基礎(人数・人材の適正配置)は固まったとみる。人材育成もミドルリーダーによるOJTにより、若手が育っている。(○) ② 毎朝の打ち合わせは、長期休業中もやっている。(◎) 職員会議は、原則月1回定着。たまに、臨時職員会議の開催。(△) 分掌会議、委員会会議、月1回で定着。(△) 企画運営会議も月1回で定着。支障はない。(△) 総務部…首席が統括している。学年主任及び情報関係者で構成しているが、分掌業務に該当しない「隙間的」業務について機能している。(◎) ③ 初任2年目から、分掌長を任命している。 進路指導主事、教務部。経験豊かな教員が主にOJTにより若手教員を育成しながら、分掌組織が機能している。(○) ④ 学年会議は、週1回定着。学年会議には、学年の進路担当者も入り、生徒情報に耳を傾け、進路指導のマッチングに役立てている。マッチングについては、非常に時間を割いて行っている。本人希望、保護者の意向、担任や学年集団、また学科関係者と進路担当者がよく話し合っている。(◎) ⑤ 摂津・とりかい両校が併置されている中で、もともと施設設備については、共用施設が多く、運用に関する連絡調整が必要であった。管理職連絡会はもちろんのこと、現場の教員同士の話し合いの機会を年3回作っている。(○)</p>

府立とりかい高等支援学校

<p>3. 地域への認知促進と地域との連携</p>	<p>(ア) 地域企業とつながる。 (イ) 地域住民とつながる。 (ウ) 障がい者理解推進。 (エ) 同種校との連携・提携。 (オ) 地域への発信。</p>	<p>① 職場実習（インターンシップ）先の開拓、就労先企業の開拓。 ② 地域社会資源の活用と連携。 ・オープンスクールの開校 ・「喫茶・販売」や「学校祭」を通じて、地域住民の利用や地域住民の認知度高める。 ③ 共生推進校や近隣の高校との交流やセンター的機能を高める。 特に、近隣の高等学校との交流実現。 （*交流学习・共同学習をめざす） 新たに、本校と大学との連携を模索し、実践課題とする。 ④ 課外クラブ活動をより活性化させ、支援学校全体のスポーツ大会・行事への積極的参加を促進する。また、文化活動でも、校外の生徒と切磋琢磨する機会を作る。 ⑤ HP や印刷媒体「地域だより」を使った地域への周知。 ⑥ 職業学科や職業に関する授業の取り組み成果を地域へ還元していく。</p>	<p>① 長期休業中（夏期休業）を活用した、職場実習先の開拓を全教員が行う。 企業へアプローチを<u>全員で50社確保</u>。 企業対象の学校見学会の開催（年1～2回） 企業フォーラムの開催（年1回） ② 地域の社会資源とタイアップし、生徒の社会的自立を狙いながら、生徒による社会貢献及び職業実習の取り組みを行う。 オープンスクールの開催（年1回、3日間） ③ 1ないし2校 継続的な取り組みが可能な相手校を探していく。大学との連携も進める。 ④ サッカー大会、カルタ大会（百人一首）、音楽祭等。（年1回）その他のスポーツ大会・行事への参加を積極的に進めていく。 ⑤ 「地域だより」発行。（年5回以上） ⑥ 地域住民へ向けて、農産物の販売や喫茶コーナーの開放を行う。</p>	<p>① 夏期休業中に、職場開拓を行い、64社の会社から「実習受け入れ可能」という、返事をいただく。（○） 商工労働部主催が9月に1回、（○） 中小企業同友会が主催が10月に1回 企業フォーラムは今年はない。上記の催し物をしたため。（△） ② 今年から、クリーニング業者へ、毎週水曜日に学科が実習に出かける。（○）今年度も、「摂南大学」への清掃と事務サービスの実習を行い、今年も継続中。（○） オープンスクール 8月下旬三日間開催。約450名来校。（○）※「学校説明会」今年は、二日間180名。 ③ 府立摂津高校とのスポーツ交流について、本年度は、サッカーとバスケットボールの2回行った。（◎） ④ バスケットボール大会は、大阪府で上位3位と4位獲得。陸上では、和歌山国体2名出場（メダル獲得）むらの高等支援とのカルタ大会を予定。音楽クラブは、摂津支援との共催で3回、外部会場で演奏（◎） ⑤ 現在4号発行済み。（○） ⑥ 11月末の学校祭で、農産物ではないが、生産技術科の製品を販売（○）</p>
---------------------------	--	--	--	--